

ピアノ初心者学生の「こどもの歌」弾き歌い指導の一考察 ——「オバケなんてないさ」を用いて——

A Study of the Lesson; Singing Children's Song with the
Piano to the Beginning Level Students:
By Using “Obakenante nai sa”

水野 沙織

Saori Mizuno

目 的

本研究では、令和5年度の保育者養成校T短期大学スクーリング科目：こどもの指導法「音楽表現」実践演習の弾き歌い課題曲から「オバケなんてないさ」（作詞：まきみのり、作曲：峯陽）を例に、歌詞とメロディーの論理的分析のもとに、ピアノ初心者学生が各自の力量に応じた弾き歌い奏法を導き出す事を目的とする。なお、本研究における初心者とは、本学入学以前にピアノレッスンの受講経験がない2年生とする。

歌詞の分析

歌詞の考察

楽曲の理解を促すため、授業内で歌詞の分析を行った。これにより、それぞれの番数で歌詞は3つの部分に分けられ、オバケが怖くてお風呂に行けない子どもが「強がる」「本音を吐露する」「鼓舞する」様子が表現されているとの結論に至った。また、本楽曲が8小節内で子どもの心理の移り変わりを表現する演劇的な性格を有していることが分かった。

更なる考察の発展のため、歌詞を2小節ごとに区切り、それぞれの歌詞を動詞に置き換えたのち、結末を考えた。(表1)

表1 歌詞の分析

番数	歌詞	歌詞の考察
1	オバケなんてないさ オバケなんてうそさ	教える
	ねぼけたひとが みまちがえたのさ	信じる
	だけどちょっとだけどちょっと ぼくだってこわいな	白状する
	オバケなんてないさ オバケなんてうそさ	言い聞かせる
2	ほんとにオバケが できたらどうしよう	想像する
	れいぞうこにいらて かちかちにしちやおう	打ち負かす
	だけどちょっとだけどちょっと ぼくだってこわいな	本音をささやく
	オバケなんてないさ オバケなんてうそさ	おまじないを唱える
3	だけどこどもなら ともだちになろう	楽しみになる
	あくしゅをしてから おやつをたべよう	思いつく
	だけどちょっとだけどちょっと ぼくだってこわいな	やっぱり怖いと気づく
	オバケなんてないさ オバケなんてうそさ	そうであって欲しいと願う
4	オバケのともだち つれてあるいたら	強がってみる
	そこらじゅうのひとが びっくりするだろう	尊敬されたいと思う
	だけどちょっとだけどちょっと ぼくだってこわいな	ハッとする
	オバケなんてないさ オバケなんてうそさ	疑問を持つ
5	オバケのくには オバケだらけだってさ	大したことないと思う
	そんなはなしきいて おふろにはいろう	決断する
	だけどちょっとだけどちょっと ぼくだってこわいな	現実を見る
	オバケなんてないさ オバケなんてうそさ	鼓舞する
結末		ひとりでお風呂に行く

歌詞理解と表現

表1の分析を演奏表現と結びつけるため、以下の演習を行った。

演習1 2小節毎に歌詞の考察を口にしてから歌詞を読む。この時、考察した動詞が歌詞の抑揚と表現上結びつくように留意する。

例)「教える」「オバケなんてないさ オバケなんてうそさ」／教えているように読む。

演習2 演習1と同様に考察を口にした後、今度は歌詞にメロディーをつけながら2小節ずつ区切って歌う。

歌詞分析のまとめ

歌詞の分析により、本楽曲は3つの部分に分けられた心理描写が1番から5番に向けて徐々に変化していく演劇的な構造を持つことが分かった。これにより表現の方向付けが促され、演習により歌唱の表現方法を会得することが出来た。

音楽構造の分析

次に音楽構造の分析を、メロディー、リズム、ハーモニーに分けて実施した。なお、本文中の小節番号は参考文献1および2の楽譜（越部信義編曲）に準じた。

譜例の提示

参考文献2（NHK出版）を基に、ピアノ初心者学生が弾き歌いすることを想定して、譜例1の楽譜を起こした。なお、2番以降の歌詞と前・後奏部分の提示は割愛する。

Allegretto

5 G D7 G
 1. オバケ なん てな いさ オバケ なん てう そさ

7 G D7 G
 ね - ほ け た ひ と が み ま ち が え た の さ

9 Am7(6) A7 D7
 だ け ど ちよ と だ け ど ちよ と ほ く だ て こ わ い な

11 G D7 1.2.3.4. G
 オバケ なん てな いさ オバケ なん てう そさ

13 5 D7 G
 オバケ なん てう そ さ

譜例1：オバケなんてないさ

メロディーの分析

音高 最低音 D4、最高音 D5から構成される。

5小節目 G4の同音4連続後に完全4度下降して最低音 D4に到達後、直ちに長6度上行する。

6小節目 なだらかに上行から下降へ推移し最低音 D4に到達。

7小節目 5小節目と同様。

8小節目 上行旋律は2度音程で最高音 D5に到達後、2度音程を維持したまま下降する。

9小節目 A4の4連続後、長2度上行。このモチーフを2回繰り返す。

10小節目 9小節目の開始音 A4から2度ずつなだらかに下降後、最低音 D4に到達。

11-12小節目 7-8小節目と同様。

リズムの分析

歌唱部分のリズムは、図1のリズムを5-8小節目ならびに11-12小節目で変容することなく繰り返す。

なお、9小節目は、図1のリズムの1・2拍目が繰り返される縮節となっており、10小節目は②③①④拍の順番に入れ替えられている。

これにより、歌唱部分のリズムは5番カッコを除いて全て図1のリズムとその変容で構成されていることが分かった。

ハーモニーの分析

ハーモニーの分析を前掲譜例1のように行い、コード進行は、9-10小節目を除いて、全てI→Vの繰り返しとなっていることが分かった。

なお、10小節目のA₇はドッペルドミナントになり、9小節目のA_{m7}は、A₇(ドッペルドミナント)の同主短調音(準固有和音)となる。これら借用和音の使用により、9-10小節目の2小節目間で短調の不安な響きからドッペルドミナントを経て主音解決に導かれるドラマチックな効果が生み出されていることが分かった。

音楽構造の分析のまとめ

音楽構造の分析により、本楽曲は歌詞の3部構造に呼応して、提示部(5-8小節目)、展開部(9-10小節目)、再現部(11-12小節目)の3部形式で構成されていることが分かった。

また、提示部と再現部は全く同じリズムとコード進行でありながら、メロディーラインの使い分けで停滞と跳躍を歌詞に乗せて表現していることも分かった。



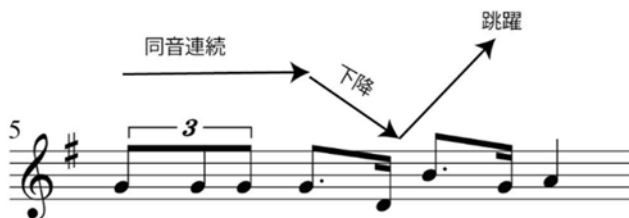
図1 リズムパターン (①~④は拍子番号)

例えば、5小節目は「オバケなん」まで同音が連続する。その後「て」で最低音に完全4度急降下した後、ないさの「な」で長6度跳躍する。これによりおばけなんて「ない」の歌詞がくっきりと浮かび上がる効果が分かる。(譜例2)

また、8小節目「みまちがえたのさ」で初めて最高音 D5 が現れるが、これにより、8小節目に非常に強い意志が込められていることが想起できるようになっている。

それに対して展開部の9-10小節目は、借用和音とリズム構成の順序を変えることで、それ以外の小節とは異なる印象がもたらされている。2回繰り返される「だけどちょっと」箇所では A4 の同音が4回続いた後、長2度上行して浮遊感を作る。その後「ほくだって」迄はなだらかな2度下降が続き「こわいな」で最低音 D4 が4回繰り返される。これにより、本音を吐露する心の揺れと怖い思いの強調が表現されている。(譜例3)

1番から4番までの結びとなる再現部の11-12小節目は7-8小節目と全く同じではあるが、最高音 D5 を使うことで鼓舞する心情を表現している。5番カッコでは最高音 D5 が連続になることで、感情の高まりが頂点に達していることと同時に、歌を主音で解決させないことで本音では怖い思いを抱えたままであることを表現している。



1. オ バ ケ なん て な い さ

譜例 2



だ け ど ちよつ と だ け ど ちよつ と ほ く だつ て こ わ い な

譜例 3

演奏法の考察

これまでの歌詞ならびに音楽構造の分析により、「オバケなんてないさ」の楽曲において、3つの部分に分けられた心理描写が1番から5番に向けて徐々に変化していく様子を演奏表現に求められることが分かった。ここでは、それらの表現を初心者学生が各自の力量に応じて弾き歌い出来る方法を考察する。

演奏法の方向づけ

NHK出版の越部信義編曲譜はピアノ伴奏部分でメロディーを演奏しない。「みんなのうた」放送時はプロ歌手による演奏であったが、幼児が歌うことを考えるとメロディーラインをピアノで演奏することが望ましい。そのため、前掲譜例1で示したコードを参考に、右手でメロディー、左手でコード伴奏をするスタイルとした。

右手奏法の留意点

右手奏法で初心者学生が躓きやすい点を、以下の方法で克服できるよう試みた。

正しいメロディーの把握 正しい音、リズムの把握のために音源を作成して個別練習で活用できるようにした。音源を再生しながら階名で何度も歌い、メロディーを覚えた。

指遣いの提示 指くぐり回数を最小限にした指遣いを提示の上、各自の身体状況に応じて調整を行った。

同音連続の奏法 同音連続の際、鍵盤のリリースを意識し連打を容易にした。

左手奏法の考察

左手は、各自のレベルに応じてLv.1からLv.3まで譜例4のように提示した。

授業での展開

授業においてレベル別の左手奏法を以下の方針で提示した。

Lv.1 コード指示に合わせてルート音のみ演奏。

Lv.1+ 音高を変えずルート音のみで4拍子を刻む。展開部は2分音符にした。

Lv.2 オクターブで4拍子を刻む。(Lv.3の外枠になるため前段階の練習に使用可)

Lv.3 ポップス音楽の左手奏法の形式で、主音と第5音を組み合わせた。9-10小節目のアイデア②では、右手のリズム変化を際立たせるために左手を全音符または2分音符で伸ばすリズムの提示をした。

学生には、これらの提示と共に左手部分を空白にした楽譜を配布し、自身に適すると思われるレベルで左手パートを記載させた。この時、特にLv.2やLv.3を選択した学生からは展開部(9-10小節目)に関して、歌詞の内容を表現するために効果的な奏法の様々なアイデアが出された。

練習の留意点

初心者学生のピアノ奏法の練習における留意点を以下のように整理した。

打鍵タイミング 左右を同時に打鍵する際、打鍵開始時から打鍵ポイント到達時点までを同じスピードにする。

Lv.1 G D7 D7 G Am7⁽⁶⁵⁾ A7 D7

12小節目

1.2.3.4. D7 G 5 D7 G

Lv.1+ G D7 D7 G Am7⁽⁶⁵⁾ A7 D7

Lv.2 G D7 D7 G Am7⁽⁶⁵⁾ A7 D7

Lv.3 G D7 D7 G Am7⁽⁶⁵⁾ A7 D7

9-10小節目のアイデア① Am7⁽⁶⁵⁾ A7 D7

9-10小節目のアイデア② Am7⁽⁶⁵⁾ A7 D7

12小節目

1.2.3.4. D7 G 5 D7 G

譜例 4

演奏姿勢 腕の高さや鍵盤までの距離、椅子の座り方など演奏姿勢の確認をする。

右手練習の留意点 正しい指遣い・リズムを考える。

左手練習の留意点 指のポジション移動を最小限にして移動距離を把握する。

両手練習の留意点 左右を合わせる箇所の把握を優先する。リズムが狂ってきたら再度片手ずつの練習でリズムを確認し、正しいリズム・テンポで弾けるようになるまで片手→両手→片手を繰り返す。

演奏の考察

これまで、学生には音数が多い煌びやかな演奏が優れたピアノ伴奏であるとの認識が強かった。今回、歌詞分析を通じて表現の方向づけを行うことにより、各自の演奏レベルに応じた効果的な表現方法の模索をするようになった。このような学習の継続により、音楽を用いた「表現」領域の理解が深まることが期待できる。

まとめ

本研究を通じて、「オバケなんてないさ」の楽曲は歌詞ならびに楽曲構成により8小節の中に多感な子どもの心理描写が表現されていることが分かった。また、これらの分析を通じて、ピアノ初心者学生が表現の方向性を自ら定め、各自の演奏レベルに応じた「表現」に取り組むことが出来た。

なお、歌詞の内容を動詞に置き換えて口に出しながら表現方法を検討する学習は、演劇の訓練にも通じる。今後の発展的研究として、幼児が日常的に触れる機会の多い身近な歌を用いて、歌詞の中に表われる心理や状況描写を、考え・演じることで、日々の保育の中で演劇または、なりきり遊びへの円滑な移行が可能になることが示唆された。

本研究を基に、ピアノ初心者学生であっても音楽を通じて「表現」することを臆せず、保育者となってから子どもたちと共にその可能性を広げていくための礎が作れるような指導法の研究を継続していきたい。

参考文献

- 西野洋子・茨木金吾・國光みどり・石川ますみ・田上栄美子・菅原峰子. (2021). こどもの指導法「音楽表現」. : 豊岡短期大学通信教育部.
- まきみのり (作詞)・峯 陽 (作曲)・越部信義 (編曲). (2016). みんなのうた8・9月号新曲. : NHK 出版.
- 小林美実 (編). (1975). こどものうた200. : 株式会社チャイルド本社.
- 財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (編). (1963). 母とおさなごの歌 (第3版). : 株式会社全音楽譜出版社.